

【書 評】

小林隆著『地球市民的時代の社会科授業－「参加型体験学習」を授業に生かす－』

(森書店, 2000年) 6,300円

中 村 哲

(兵庫教育大学)

本書は、ユニセフの「開発のための教育」等のグローバル教育に関連する授業事例をてがかりに地球的視野の内容構成と主体的学習参加の学習方法に基づく中学校社会科授業を開発しているものである。本書の目次は4章から構成され、次のようになっている。

第Ⅰ章 地球市民的資質形成を意図する

「参加型体験学習」の構造

第1節 ユニセフの「開発のための教育」の中心概念

第2節 ユニセフの「開発のための教育」の基本構造

第Ⅱ章 地球市民的資質形成を意図する

「参加型体験学習」の実践の類型

第1節 授業実践に基づく学習目標・学習内容の類型

第2節 授業実践に基づく学習方法の類型

第Ⅲ章 地球市民的資質形成を意図する

「参加型体験学習」の実践

第1節 「相互依存」に基づく授業実践

第2節 「イメージと認識」に基づく授業実践

第3節 「紛争そして紛争解決」「社会正義」「変革と未来」に基づく授業実践

第Ⅳ章 地球市民的資質形成を意図する「参加型体験学習」に基づく社会科授業の開発

第1節 地球市民的資質形成を意図する中学校社会科授業の構想と開発

第2節 地球市民的資質形成を意図する中学校社会科授業の授業設計

第Ⅰ章ではユニセフの「開発のための教育」の5つの概念が内容構成の鍵であり、その概念に対応している学習目標の抽出がなされている。さらに、5つの概念と学習プロセスの3段階との関連づけがなされている。このことにより「開発のための教育」の目標、内容、方法の基本構造が明確

にされている。第Ⅱ章では「開発のための教育」の基本構造に基づいて「参加型体験学習」の授業123事例を類型化し、各全体的特性が指摘されている。

第Ⅲ章では「相互依存」「イメージと認識」「紛争そして紛争解決」「社会正義」「変革と未来」の概念と「地球社会の認識」「地球社会に関する見方の変容」「地球的諸問題判断力態度形成」の学習目標の類型視点に基づいて類型化された授業事例の基本的性格が、学習方法と関連づけて考察されている。第Ⅳ章では中学校社会科公民的分野の国際社会に関連する単元「豊かさの歪み」として、全9時間の授業事例の開発がなされている。具体的には、「第1次 食べ物から世界が見える(1時間)」「第2次 今、コーヒー農園では(1時間)」「第3次 ジャーナリストになろう(3時間)」「第4次 新津商事は、コーヒー園から撤退すべきか否か(1時間)」「第5次 生活見直しビンゴゲーム(1時間)」「第6次 発信者になろうーインターネットー(2時間)」の事例である。

これらの事例は、第Ⅰ章から第Ⅲ章までにおいて解明された「参加型体験学習」の基本構造と授業実践の手法を活用したものとなっている。その意味では、本書の内容は、「参加型体験学習」の授業事例に基づいてグローバル教育としての地球的市民資質形成を理論と実践に関連づけたものであると言える。

わが国においてグローバル教育の理論的・実践的研究が開始されたのは、ジェームス・ベッカーやリー・アンダーソンなどのアメリカにて提唱された理論や実践の紹介がなされた1978年ごろである。その後、現在までにわが国におけるグローバル教育の可能性が模索されてきている。本書が中学校社会科公民的分野における魁的役割を担うことを期待する次第である。